

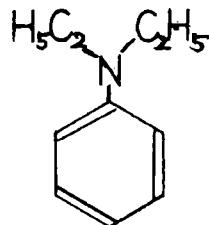
N,N-ジエチルアニリンの濃縮度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和52年2月16日～昭和52年5月24日

2. 試料名 N,N-ジエチルアニリン (試料名K-237)

分子式  $C_{10}H_{11}N$

構造式



性状 比重 0.938～0.940

沸点 216.5℃

溶解性 水に微量溶解，アルコール，エーテル，ベンゼンに溶解

経時変化 光により酸化をうけて色が濃くなることがある。  
ポリエチレン等プラスチックとの接触で長時間後に純度が低下することがある。  
(提示資料による)

3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号

薬 発 第 615 号 } 魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験による

49 基 局 第 392 号 }

3.1 試験装置及び機器

(a) 水系環境調節装置 流水式

(b) ガスクロマトグラフ 日本電子社製 JGC-20KFP型

3.2 試験条件

3.2.1 TLm試験

(a) 試験魚

ヒメダカ 平均体重 0.26g、塩化第二水銀検定合格魚※

※田端健二 用水と廃水 14 1297～1303 (1972)

(b) 分散剤及び分散法

分散剤 硬化ヒマシ油 (日光ケミカルズ HCO-40)

分散法 供試物質 5g と硬化ヒマシ油 25g を温水中で

かく拌混合した後 1 l に定容して 5000 ppm (W/V) の原液を調製した。

(c) 試験温度

25 ± 2℃

(d) 結 果

48 時間 TLm 値 16.8 ppm (W/V)

3.2.2 濃縮度試験

(a) 外部消毒及び順化

(1) 外部消毒

止水状態で 10 ppm 塩酸クロロテトラサイクリン溶液で 24 時間薬浴を行つた。

(2) 順 化

25℃ × 21 日

(b) 試験水槽

ガラス製 容 量 100 ml

流 水 量 579 l/日

(c) 試験魚

コイ 平均体重 約 3.4 g

平均体長 約 11 cm

(d) 分散法

3.2.1 (b) に同じ。

(e) 試験温度

25 ± 2 °C

(f) 試験水槽の溶存酸素

図-13, 14 参照

(g) 設定濃度

48 時間 TLM 値 16.8 ppm ÷ 20 の  $\frac{1}{100}$  及び  $\frac{1}{1000}$

に設定した。 (単位 ppm)

	供試物質	硬化ヒマシ油
第 1 濃度区	0.2	1.0
第 2 濃度区	0.02	0.1

実測値

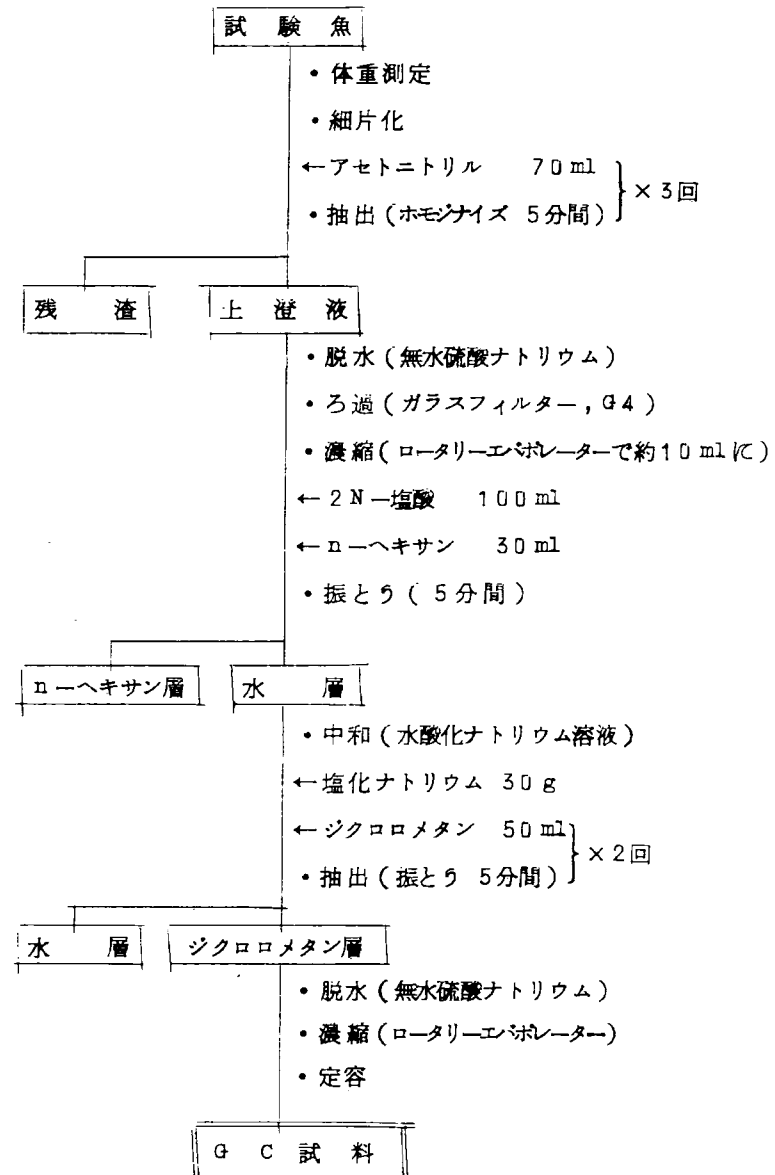
表-1 濃縮倍率を求めるための平均濃度 (ppm)

	2W	4W	6W	8W
第 1 濃度区	0.166	0.157	0.161	0.162
第 2 濃度区	0.021	0.020	0.019	0.020

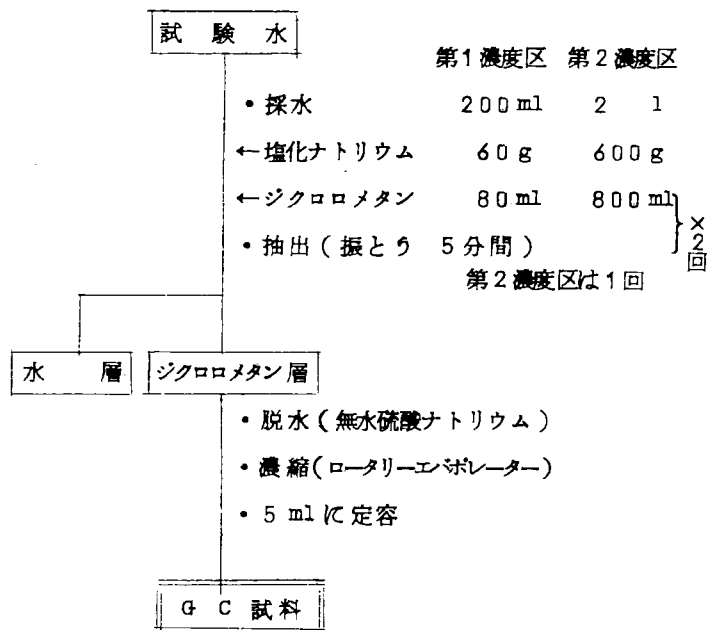
以下次頁に続く

3.2.3 分析試料の前処理

(a) 魚 体



(b) 試験水



3.2.4 分析条件

ガスクロマトグラフ 日本電子社製 JGC-20 KFP 型

検出器 FID

充てん剤 シーエン60 10% / ダイヤソリッド L 80-100 メッシュ

カラム ガラス製 2 mmφ × 1 m

カラム温度 95℃

キャリアーガス N<sub>2</sub>

以下次頁に続く

4. 試験結果

表-2 濃 縮 倍 率

	2W	4W	6W	8W	付 図	付 表
第1濃度区	75 63	95 118	44 57	161 64	1, 4, 5	3, 4, 6
第2濃度区	98 80	57 17	28 29	125 75	2, 4, 6	3, 5, 6

5. 備 考

操作上特に問題点はなかつた。

以 上